２０２４年度事業報告書

社会福祉法人全国盲ろう者協会

２０２４年度　事業報告

＜はじめに＞

　２０２４年度は、長く続いた新型コロナウイルス感染症による社会的混乱が一応収束し、社会全般としては通常の状態に戻ってきたと言えます。しかしながら、当協会がこれまで実施してきた各種研修事業などの中には、コロナ禍の時期にやむを得ず採用したオンライン方式が安定的に定着したものもあり、今後は、事業内容に応じて、適宜、対面方式とオンライン方式を使い分ける形で事業を進めていくこととしました。

　具体的な事業の実施状況としては、５年ぶりの開催ということで関係者の皆様から大きな期待を寄せられていた全国盲ろう者大会は、大型台風の接近という思わぬアクシデントのために、誠に遺憾ながら中止のやむなきに至りましたが、その他の各種研修事業等については、概ね予定通りに実施することができました。ただし、新規事業として洲崎福祉財団に申請した「盲ろう者の就労支援試行事業」については、残念ながら助成金の対象には選ばれず、実施を断念せざるを得ませんでした。

　また、休眠預金を活用した「盲ろう者の地域団体の創業支援事業」では、実行団体である５つの団体全てにおいて、盲ろう者向けの同行援護事業の実施が進むとともに各団体の活動が活性化するなど、大きな成果をあげることができました。

　以下に、各事業の実施状況をご報告します。

＜実施事業の概要＞

Ⅰ．厚生労働省委託事業Ⅰ（盲ろう者向け通訳者養成研修等事業）

（盲ろう者関係生活相談等事業）

１．盲ろう者関係生活相談事業

２．広報誌発行事業

（盲ろう者向け通訳者養成研修事業）

３．盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者養成研修事業

４．盲ろう者国際協力推進事業

５．盲ろう者福祉啓発事業

（盲ろう者情報機器活用訓練等促進事業）

６．盲ろう者向け情報機器指導者養成研修事業

７．コミュニケーション訓練個別訪問指導事業

８．全国盲ろう者団体ニューリーダー育成研修事業

（福祉・医療・教育分野等連携事業）

９．福祉・医療・教育分野等連携事業

Ⅱ．厚生労働省委託事業Ⅱ（盲ろう者の総合リハビリテーション・システム事業）

１０．盲ろう者の総合リハビリテーション・システム事業

Ⅲ．一般財団法人日本民間公益活動連携機構助成事業

１１．盲ろう者の地域団体の創業支援事業

Ⅳ．公益財団法人ＪＫＡ補助事業

１２．全国盲ろう者大会開催事業(中止)

Ⅴ．公益財団法人洲崎福祉財団助成事業

　　１３．盲ろう者の就労支援試行事業(中止)

Ⅵ．生活協同組合助成事業

１４．『全国盲ろう者協会設立３０周年記念誌』発行事業

Ⅶ．自主・協力事業

１５．盲ろう者の生活状況等に関する実態調査 (厚生労働省実施)にかかる　事業協力

１６．盲ろう者関係図書刊行事業（自主事業）

１７．盲ろう者向け情報機器等研究開発推進事業(自主事業)

＜事業別実施状況＞

Ⅰ．厚生労働省委託事業Ⅰ（盲ろう者向け通訳者養成研修等事業）

（盲ろう者関係生活相談等事業）

１．盲ろう者関係生活相談事業

　盲ろう当事者の相談員２名を中心として、全国各地の盲ろう者からの生活相談のほか、家族や通訳・介助員、福祉関係者等からのさまざまな相談や情報提供の要請に応えてきました。面談、電話、ファックス、メール等を通じて扱った相談件数は、１年間で１２１件となりました。

２．広報誌発行事業

　わが国唯一の盲ろう関係専門誌『コミュニカ』を２回発行し、盲ろう者、支援者及び関係機関へ送付しました。

第６９号　　墨字版　２，５００部　　点字版　４４５部

（特集記事として「盲ろう者と医療について考える」を掲載）

第７０号　　墨字版　２，５００部　　点字版　４４５部

（特集記事として、「『コミュニカ』に期待すること」を掲載）

※本誌は、活字版、点字版、ＣＤ版（テキスト、ワード、ＰＤＦ、ＢＥＳ、　　　　　音声デイジーのデータを収録）により発行しています。

（盲ろう者向け通訳者養成研修事業）

３．盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者養成研修事業

　盲ろう者向け通訳・介助員養成事業は、都道府県（指定都市・中核市を含む。以下同じ。）が行う地域生活支援事業の必須事業であり、厚生労働省から養成講習会の標準カリキュラムが示されています。当協会では、この標準カリキュラムに基づいて都道府県が行なう養成講習会を円滑に進めるため、養成講習会の指導者（講師）養成に特化した研修事業（中央研修）を行っています。

　２０２４年１０月１９日（土）～１２月２１日（土）まで、断続的に４日間の研修を行いました。オンライン研修のため、前年度に続き、全国各地から多数の受講申し込みがあり、２３名（うち、盲ろう者３名、聴覚障害者１名）が修了しました。

　研修内容は「標準カリキュラムの説明および全国の養成講習会の実施状況」、「講師の基本」を始めとして、「盲ろう者の日常生活とニーズ」、「盲ろう通訳技術の基本」、「通訳・介助員の心構えと倫理」、「通訳・介助実習の進め方」を取り上げました。受講者には課題科目を割り当て、講義・グループ討議を通して、指導案を作成する等の課題を設けました。

４．盲ろう者国際協力推進事業

　本事業は、世界盲ろう者連盟（ＷＦＤＢ）や盲ろうインターナショナル（ＤｂＩ）などの国際組織及びその加盟各国と連携し、世界の盲ろう情報の収集と、わが国の情報を世界へ発信する目的で実施しています。

　当協会においては、これまでアジア諸国とのネットワーク構築などに努め、一定の成果をあげてきましたが、２０２０年からの世界的なコロナ禍の影響で、このネットワークが事実上機能を停止してしまいました。２０２４年度においては、ネットワークの再構築などに向けて、関係諸国との連携・調整を進めることとし、本年３月１日から３日まで、ネパールのポカラにおいて開催されたＤｂＩの「２０２５デフブラインド・インターナショナル アジア地域会議」に当協会の福田評議員を派遣して、参加者との交流を深めるとともに、情報収集にも努めました。また、この会議において福田評議員は「聴覚障害者と視覚障害者のインクルージョンに関するパネルディスカッション」にパネリストとして登壇しました。

　同様に、コロナ禍の間、必ずしも十分な連携が取れていなかった世界盲ろう者連盟（ＷＦＤＢ）との関係を円滑化するため、９月１９日（木）、９月２０日（金）の両日、ＷＦＤＢのサンニャ会長と当協会の福島理事、門川理事、福田評議員ほか数名の職員によるオンライン会議を開催し、情報交換、意見交換を行いました。

　加えて１２月１８日（水）には、ＷＦＤＢのユースコミュニティリーダーであるペラ・カントニー・ゴメス氏がスペインから来日し、当協会会議室にて、(１)ＷＦＤＢユースコミュニティの活動についての情報共有、(２)日本の若い盲ろう者のコミュニティ形成に関する意見交換を行いました。

５．盲ろう者福祉啓発事業

　前年度に引き続き、地元の友の会と連携しての活発な啓発活動を行うことはできませんでした。しかしながら、例年実施している「盲ろう者向け通訳・介助員派遣、養成研修事業」等の実態調査は行い、報告書を当協会ホームページにて公表する予定です。

（盲ろう者情報機器活用訓練等促進事業）

６．盲ろう者向け情報機器指導者養成研修事業

　コミュニケーションと情報の取得に大きな困難を抱える盲ろう者にとって、パソコン等の情報機器の利用技術を身につけることは極めて重要な意義をもっています。しかしながら、一般的な障害者向けのパソコン教室などにおいては、盲ろう者の障害特性に応じた適正な指導を受けることは困難であることから、当協会では、独立行政法人福祉医療機構の助成による開拓的事業を経て、２０１５年度からは厚生労働省の委託事業として継続的に本事業を実施しています。

　２０２４年度は、点字の読み書きが可能な盲ろう者が、独力で情報を取得したり、メールを使って他者とのコミュニケーションができる点字情報端末「ブレイルセンス　シックス」の操作法の指導について、指導マニュアルを作成し、対面による研修を行いました。本研修会は、１２月１３日（金）から１５日(日)までの３日間、東京都新宿区(新宿喜楓ビル)において開催し、全国から１２名（うち、視覚障害２名、聴覚障害１名）が受講しました。

７．コミュニケーション訓練個別訪問指導事業

　盲ろうは希少な障害であり、特に地方においては散在していることが多く、移動にも大きな困難を伴うため、盲ろう者が、パソコン等の情報機器の利用技術を身につけるためには、個別訪問指導が極めて有効な手法となります。当協会では、独立行政法人福祉医療機構の助成による開拓的事業をへて、２０１５年度からは、盲ろう者に対する情報機器の個別訪問指導事業を、厚生労働省の委託事業として、全国規模で実施しています。

　２０２４年度は、３名の盲ろう者（福島県、福井県、奈良県）を対象に、点字ディスプレイ、ブレイルセンス、パソコンと点字ディスプレイ等を活用した訓練を提供しました。

　また、前年度の受講者２名（奈良県、神奈川県）に対する積残し分の講習会と、過去の受講者４名（山形県、京都府、三重県、滋賀県）に対するフォローアップ訓練も行いました。

８．全国盲ろう者団体ニューリーダー育成研修事業

　盲ろう者の社会参加を進めていくためには、各地域における盲ろう者友の会などの活動の活性化が必要であり、盲ろう当事者リーダーの果たす役割が極めて重要です。このため、当協会では、独立行政法人福祉医療機構の助成による事業を経て、２０１５年度からは厚生労働省の委託事業として継続的に本事業を実施しています。

　２０２４年度は、１１月２３日（土）・２４日（日）の２日間にわたり、オンライン方式により研修を開催し、全国から５団体・５名の受講がありました。　本年度は、過去２年間取り上げてきた「防災への取り組み」を踏まえて、講演１「学んだことを分かりやすく話すポイント」として、盲ろう者の立場から当協会職員の庵悟と、支援者の立場から近藤ゆかり氏が講演を行いました。また、講演２「研修修了者による実践事例〜札幌市での防災学習会企画・発表〜」では、盲ろう者の須田珠栄氏が講師を担当した防災学習会での事前の打ち合わせから当日の準備に至るまでの過程について、講演を行ったのち、講師も交えて受講者との意見交換を行いました。

（福祉・医療・教育分野等連携事業）

９．福祉・医療・教育分野等連携事業

　当協会では、公益財団法人日本財団の助成を受け２０１９年度からの３か年計画で、国立病院機構東京医療センターと連携して、「盲ろう児者の医療アクセスと医療連携を支えるネットワーク構築事業」を実施し、東京医療センターに医療情報窓口を設置し、医療施設等のデータベース（ポータルサイト）を開設するなど、盲ろう児者の医療ネットワーク構築に取り組んできました。これらの取り組みを継承するかたちで、２０２３年度より厚生労働省の委託により、新たに取り組むこととしたものです。

　２０２４年度は、ポータルサイトに、東京・大阪・愛知、神奈川に加えて福岡の各種情報を整備するとともに、７月２１日（日）には福岡市において、当協会、国立病院機構東京医療センター、日本調剤株式会社の共催で、「盲ろう児者支援公開講座　盲ろう児者の福祉、医療、教育の連携を考える」を、現地の会場での参加とオンライン参加によるハイブリッド方式により開催しました。これは、盲ろう児者及びそのご家族が、福祉・医療・教育等の分野において、適切な支援が受けられるよう、関係機関とのネットワークを構築することを目的に実施したものです。

　当日は、福岡盲ろう者友の会、福岡県障害者社会参加推進センター、九州大学病院等の医療機関、福岡視覚特別支援学校という福祉・教育・医療の３分野の立場から講演をいただき、現地５６名、オンライン１１９名の参加がありました。

Ⅱ．厚生労働省委託事業Ⅱ

（盲ろう者の総合リハビリテーション・システム事業）

１０．盲ろう者の総合リハビリテーション・システム事業

　当協会では、２０１６年度から２０１７年度にかけて実施した「盲ろう者の総合リハビリテーション・システム検討委員会」での検討結果を踏まえて、２０１８年度から「日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンター（仮称）」の開設に向けた先行的試行事業を開始しました。この事業は、当協会において２０１２年度から進めてきた「盲ろう者の生活訓練事業」を引き継ぐものであり、具体的には、盲ろう児に関する専門相談、成人の盲ろう者に対する短期の宿泊による訓練、在宅の盲ろう者を定期的に訪問して生活訓練を行う訪問（出前）型の訓練、訓練終了後の地域移行を念頭に地域のリソースにつなぐケアマネジメントなどの取り組みを試行してきました。

　２０２４年度は、これまで実施してきた宿泊型訓練、通所型の日中活動の場の提供、訪問型訓練の実績を踏まえて、これらの取り組みの内容を評価し、今後の取り組みに活用していけるよう、報告書の取りまとめを行いました。

Ⅲ．一般財団法人日本民間公益活動連携機構助成事業

１１．盲ろう者の地域団体の創業支援事業

　本事業は、休眠預金を活用して社会活動を支援する「休眠預金活用事業」により、当協会が「資金分配団体」となって、一般財団法人日本民間公益活動連携機構（ＪＡＮＰＩＡ）からの助成を受け、２０２２年度から３年計画で、「実行団体(地域の盲ろう者友の会）」に対する支援を開始したものです。具体的には、地域の盲ろう者友の会による盲ろう者の掘り起こしや同行援護事業所の開設・安定した運営を目指すとともに、友の会活動の活性化、組織基盤の強化を図るべく、資金的支援及びプログラム・オフィサーを中心とした非資金的支援を積極的に進めてきました。

　この結果、本事業の最終年度となる２０２４年度末には、５つの実行団体（札幌、千葉、静岡、香川、宮崎）の全てにおいて、地域の盲ろう者を対象とした同行援護事業が安定的に進められるようになり、本事業による支援終了後においても、同行援護事業所の運営をはじめとする友の会の諸活動を継続して実施できる見通しとなりました。

Ⅳ．公益財団法人ＪＫＡ補助事業

１２．全国盲ろう者大会開催事業(中止)

　２０２４年度は、８月３０日(金)から９月１日（金)までの３日間の日程で、兵庫県姫路市において５年ぶりとなる全国盲ろう者大会を開催する予定でしたが、大型台風の接近と、それに伴う公共交通機関等の混乱が見込まれたことから、参加者の安全確保を最優先して、誠に遺憾ながら開催中止の決定に至りました。

　ただ、急な中止決定であったにもかかわらず、全国の盲ろう者友の会の皆様のご協力により、参加予定者への連絡等は円滑に進めることができ、開催予定地での大きな混乱などは避けることができました。

　なお、払い込み済みであった大会参加費等については、ご寄付頂いた一部の方を除き、払い戻しを行いました。

Ⅴ．公益財団法人洲崎福祉財団助成事業

１３．盲ろう者の就労支援試行事業(中止)

　本事業は、公益財団法人洲崎福祉財団からの助成を得て、２０２４年度からの３か年計画で盲ろう者の就労支援事業を試行する予定でしたが、当協会が同財団に提出した事業計画は採択されず、他に資金確保の目途が立たないことから、中止のやむなきに至りました。

Ⅵ．生活協同組合助成事業

１４．『全国盲ろう者協会設立３０周年記念誌』発行事業

　この冊子は、２０２１年３月に設立３０周年を迎えた当協会の歩みを、設立前の様々な動きなどを含めて詳細に記録したもので、わが国における盲ろう者の活動や盲ろう者支援の歴史を知るうえで、大変貴重な資料となるものです。

　当初は、２０２３年度中の発行を予定していましたが、原稿執筆等の遅延により、２０２４年９月の発行となり、１，４００部を関係者に配付しました。

Ⅶ．自主・協力事業

１５．盲ろう者の生活状況等に関する実態調査 (厚生労働省実施)にかかる事業協力

２０２４年度に厚生労働省の障害者総合福祉推進事業による「盲ろう者の生活状況等に関する実態調査」が実施されました。本調査は、２０１２年度（平成２４年度）に実施された盲ろう者の全国実態調査とほぼ同趣旨のもので、前回の調査は当協会が直接実施しましたが、今回の調査は当協会の全面的な協力のもとにＰｗＣコンサルティング合同会社が実施しました。また、本調査結果については、本調査の検討委員会（座長　福島智氏）による審議を経て、事業報告書としてまとめられ、本年度末に厚生労働省に提出されており、近く公表される予定です。

１６．盲ろう者関係図書刊行事業（自主事業）

　「日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンター（仮称）」開設に向けた準備を具体化していく中では、海外の盲ろう者施設や関係機関などの調査・情報収集を行うだけではなく、わが国からも積極的に盲ろう者に関する情報の発信を進めることが非常に重要です。そのため、わが国の盲ろう者関係図書の英訳版を刊行し、広く海外への普及を図ります。「盲ろう者として生きて」（著者福島智）の英訳本を刊行すべく、２０１８年度にはクラウドファンディングを実施したところですが、英訳作業等に時間を要したため、刊行が遅れているものです。東京大学出版会を窓口に準備が進んでおり、２０２４年度内には刊行の予定でしたが、諸般の事情により、実際の刊行は２０２５年度にずれ込む見込みとなりました。

１７．盲ろう者向け情報機器等研究開発推進事業（自主事業）

　近年、情報化社会・デジタル化の進展とともに情報機器等の開発が急速に進んでいることに伴い、盲ろう者のコミュニケーション環境も大きく改善される可能性が拓けてきています。しかしながら、現実的には、盲ろう者が手軽に利用できる情報機器等は限られており、多くの盲ろう者は、情報化社会・デジタル化とは無縁の生活を余儀なくされています。この状況を少しでも前進させるべく、当協会では、機会あるごとに関係省庁への働きかけ、要望書の提出、また、企業等からの製品開発へのユーザーテスト等、可能な限りの働きかけや協力を行っています。

　また、障害者放送協議会、金融庁による銀行等金融サービス事業者と障害者団体との意見交換会や、厚生労働省が行う「ニーズ・シーズマッチング交流会」等にも積極的に関わり、各監督官庁及び企業等に、盲ろう者が利用できるような環境整備を求める活動を継続しています。

**２０２４年度　諸統計資料**

（２０２５年４月末現在）

**１．盲ろう者登録数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2019(H31・R1) | 2020（R2） | 2021（R3） | 2022(R4) | 2023(R5) | 2024（R6） |
| 年度末登録数 | 989 | 984 | 978 | 973 | 964 | 955 |
| 増減数 | +4 | -5 | -6 | -5 | -9 | -9 |
| （増数） | 17 | 11 | 3 | 9 | 2 | 11 |
| （減数） | 13 | 16 | 9 | 14 | 11 | 20 |

**２．重度盲ろう者登録数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
| 年度末登録数 | 779 | 773 | 767 | 759 | 753 | 747 |
| 増減数 | +7 | -6 | -6 | -8 | -6 | -6 |

**３．盲ろう者関係生活相談件数の推移**

（単位：件）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
| 方法 | 来所 | 8 | 0 | 5 | 1 | 8 | 3 |
| 電話 | 89 | 68 | 40 | 43 | 58 | 85 |
| 文書・FAX・ﾒｰﾙ等 | 37 | 61 | 44 | 58 | 29 | 33 |
| 内容 | 日常生活 | 17 | 24 | 22 | 21 | 13 | 19 |
| 社会保障制度 | 12 | 8 | 3 | 6 | 4 | 5 |
| 情報提供 | 50 | 57 | 46 | 57 | 51 | 33 |
| その他 | 55 | 40 | 18 | 18 | 27 | 64 |
| 合計 | 134 | 129 | 89 | 102 | 95 | 121 |

**４．盲ろう者向け通訳・介助員登録数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
| 年度末登録数 | 3152 | 3131 | 3111 | 3096 | 3088 | 3079 |
| 増減数 | +8 | -21 | -20 | -15 | -8 | -8 |
| （増数） | 28 | 14 | 6 | 5 | 11 | 13 |
| （減数） | 20 | 35 | 26 | 20 | 19 | 22 |

**５．全国盲ろう者大会参加者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度回数 | 2019第28回 | 2020中止 | 2021中止 | 2022中止 | 2023中止 | 2024中止 |
| 開催場所 | 愛知県名古屋市 | ― | 　　― | ― | ― | ― |
| 参加者数（内、盲ろう者） | 887（266） | ― | ― | ― | ― | ― |

（注）２０２３年度は大会に代わり「全国盲ろう者オンライン交流・体験会」を実施。

**６．盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者養成研修会受講者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度回数 | 2019第29回 | 2020第30回 | 2021第31回 | 2022第32回 | 2023第33回 | 2024第34回 |
| 開催場所 | 東京都新宿区 | オンライン | オンライン | オンライン | オンライン | オンライン |
| 受講者数（内、盲ろう者） | 25（4） | 28（6） | 30（5） | 28（6） | 26（6） | 23（3） |

**７．全国盲ろう者団体ニューリーダー育成研修会受講者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度回数 | 2019第8回 | 2020第9回 | 2021第10回 | 2022第11回 | 2023第12回 | 2024第13回 |
| 開催場所 | 千葉県千葉市 | オンライン | オンライン | オンライン | オンライン | オンライン |
| 受講者数 | 13 | 8 | 8 | 8 | 6 | 5 |

（注）２０２０年度は「全国盲ろう者団体ニューリーダー等オンライン会議体験会」として実施。

**８．盲ろう者向け情報機器指導者養成研修会受講者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度・回数 | 2019第12回 | 2020第13回 | 2021第14回 | 2022第15回 | 2023第16回 | 2024第17回 |
| 開催場所 | 大阪府大阪市 | オンライン | オンライン | オンライン | オンライン | 東京都新宿区 |
| 受講者数（内、盲ろう者） | 10（1） | 5（2） | 12（1） | 29（1） | 17（2） | 12（0） |

**９．盲ろう者地域団体（「盲ろう者友の会」等）未設置県**

|  |
| --- |
| 青森県(２０１７年４月に「青森県盲ろう者支援会」設立)　　　　　　　　（計１県） |

**１０．賛助会員数の推移**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
| 個人会員（単位：人） | 1421 | 1503 | 1450 | 1366 | 1268 | 1262 |
| 団体会員（単位：団体） | 32 | 31 | 33 | 35 | 32 | 33 |